

## 2022年度の博士前期課程の入学生より新しい教育課程となります

### 1 大学院の趣旨等

#### 1-1 建学の精神 他者理解

#### 3つのポリシー

#### 1-2 アドミッション・ポリシー

##### 教育目的

建学の精神「他者理解」に基づき、広い視野に立って学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて高度な知識基盤社会を支える人材の育成を図ると共に、高度な学術研究への道を開き、もって我が国及び国際社会の発展と文化の進展に寄与することを目的とする。(本大学院学則第1条より)

##### 求める人材像

- ①知識基盤社会を支える高度な知的素養を備えようとする人材。
- ②「国際コミュニケーション」に関する専門的知見を高め、これをもって知識基盤社会を支え、高度な職業的舞台で展開していくスキルや知識と共に、学術的な知見を深める意欲のある人材。
- ③高度なコミュニケーション・スキルとして、語学やその背景にあるコミュニケーション理論を備え、応用スキルを持つようとする人材。
- ④日本文化・社会や国際文化・社会に深い理解力を身につけ、高度な知的素養を備えようとする人材。

##### 入学者選抜方法

武蔵野学院大学大学院では国際感覚を持ち、国際的舞台や大学、研究機関等で研究者として活躍しうる学生の受け入れを図るべく、多様な入学者選抜方法を設ける。上記の「求める人材像」を踏まえ、教育目標達成にそって各選抜方法では以下の点を評価する。

##### 学内進学者選抜

本学の国際コミュニケーション学部において、教育目標を十分理解し、明確な目的意識をもって大学生活を送り、「国際コミュニケーション」に関する専門的知見を高めてきたかを評価する。知識基盤社会を支え、高度な職業的舞台で展開していくスキルと知識素養を備えるという実践的観点から、将来、研究に従事でき、高度な実務を担える人材で、修士論文をまとめることができる人材を求める試験。面接及び書類審査を課す。

##### 一般選抜

本専攻の教育目標を十分理解し、明確な目的をもって研究生活を送ることができるかを評価する。加えて、その基盤となる力としての英語力を確認する。知識基盤社会を支え、

高度な職業的舞台で展開していくスキルと知識素養を備えるという実践的観点から、研究に従事でき、高度な実務を担える人材で、修士論文をまとめることができる人材を求める試験。英語、小論文、面接及び書類審査を課す。

#### 社会人入試

社会人として培った経験、その経験から得たコミュニケーションの力や積極的に物事を理解しようとする意欲、明確な問題意識をもって研究生活を送ることができるかなどを評価する。知識基盤社会を支え、高度な職業的舞台で展開していくスキルと知識素養を備えるという実践的観点から、研究に従事でき、かつ、社会人としての経験を生かし、修了後は問題意識をもって国際社会や地域社会に貢献でき、修士論文をまとめることができる人材を求める試験。小論文、面接及び書類審査を課す。

#### 外国人留学生入試

異なる言語・教育・政治・文化のもとに育った日本語能力の高い外国人留学生を院生として入学させ、修了後は、国際化の進む我が国と出身国との前向きな交流に貢献でき、かつ我が大学の伝統を受け継げる人材を確保する。このため、高度な日本語能力を有し、本学の大学院教育目標を認識し、将来の自分の専門に関して強い目的意識と勉学意識を有し、日々の研究活動に耐え、修士論文をまとめることができる人材を求める試験。小論文及び面接を課す。

### 1-3 カリキュラム・ポリシー

カリキュラム・ポリシーとは簡単に言えば、本学の建学の精神、教育理念、養成する人材像を実現するための基本的な考え方を具体化したもの。以下のような方針に基づいて博士前期課程のカリキュラム（教育課程）を編成している。

- 1 知識基盤社会を支える高度なコミュニケーション・スキルを備え、我が国及び国際社会の発展と文化の進展に寄与し、専門性を構築できる人材養成を目指し、言語・コミュニケーション科目、日本文化・社会、国際文化・社会科目を配置する。
- 2 言語・コミュニケーション科目では英語・中国語又は日本語によるコミュニケーション能力を国際社会で通用するレベルまで引き上げ、日本を基盤に置いた国際コミュニケーションを具体化するために、中国語においては日中比較言語の視点よりコミュニケーション能力を高める科目を配置する。
- 3 日本文化・社会科目では日本を起点にして「自己と他者」、「共通性と共感」を意識し、国際的な視点から見た日本文化・社会について問題意識と研究課題を持って研究に邁進するための科目を配置する。
- 4 国際文化・社会科目では日本・米国・中国を中心にして、「自己と他者」、「共通性と共感」といった国際コミュニケーションに関する問題意識と研究課題を持って研究に邁

進するための科目を配置する。

- 5 しっかりとした勤労観、職業観を持ち、研究者としての姿勢を身に付け、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人・研究者として自立していくことができるようにするため研究指導（発表指導・研究倫理を含む）を位置付けた。
- 6 これまで身につけた知識基盤社会を支える高度なコミュニケーション・スキル及び専門性の深い見識を統合し、院生全員に対して最終的には修士論文として結実できるよう、研究指導教員により細かな研究指導を行う。研究指導は必修として位置づけ、研究者としての姿勢や社会人として自立できるような人間教育を兼ねる。

#### 1-4 ディプロマ・ポリシー

本学では以下のような能力を身につけ研究成果をおさめ、かつ所定の単位を修得した学生は、修了が認定され、修士（国際コミュニケーション）の学位が授与される。

- 1 国際コミュニケーションの知識と理論  
多様化・複雑化する国際コミュニケーションの理論を中心に、専門性の高い見識を深め、高度な学識を身に付けた人材。
- 2 研究者としての汎用的技能  
カリキュラムの多面的履修を通して、知識基盤社会を支える高度のコミュニケーション・スキルとして語学、その背景にあるコミュニケーション理論を備え、研究者として問題を解決に導く姿勢を身に付けた人材。
- 3 研究者としての態度・志向性  
建学の精神「他者理解」に基づき、研究倫理を遵守し、研究者として研究計画・研究発表・研究報告・論文執筆に真摯に取り組む姿勢を身に付けた人材。
- 4 総合的な研究経験を通しての創造性と独自性  
2年間にわたる「講義」「演習」を通して身に付けた専門的な知識を基に、研究指導を十分に受け、国際コミュニケーションの視点からの研究をまとめた修士論文が、知識の活用能力、批判的・論理的思考力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力などを統合し、これまでの先行研究を踏まえ、十分な実証が行われ、確かな見識を身に付けた人材。

大学院では3つの方針（ポリシー）を重視しています。入学時のアドミッション・ポリシー、入学後の研究に大きな組み立てとなるカリキュラム・ポリシー、最終的に修士論文として目指すものとしてディプロマ・ポリシーがあります。これらは入学から学位取得まで一貫した本学での教育・研究の流れとなります。

## 2 博士前期課程の教育課程と履修方法 (2022年からの入学生)

授業科目の概要		配当 年次	単位数又は時間数			授業 形態	備考
			必修	選択	自由		
言語 ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 科 目	英語コミュニケーション特殊演習 1	1・2		2		演習	選択
	英語コミュニケーション特殊演習 2	1・2		2		演習	必修
	中国語コミュニケーション特殊演習 1	1・2		2		演習	4 単位
	中国語コミュニケーション特殊演習 2	1・2		2		演習	
	日本語特殊演習 1	1・2		2		演習	
	日本語特殊演習 2	1・2		2		演習	
	コミュニケーション特殊講義 1	1・2		2		講義	
	コミュニケーション特殊講義 2	1・2		2		講義	
	コミュニケーション特殊講義 3	1・2		2		講義	
日 本 文 化 ・ 社 会 科 目	日本文化特殊講義 1	1・2		2		講義	選択
	日本文化特殊講義 2	1・2		2		講義	必修
	日本文化特殊講義 3	1・2		2		講義	4 単位
	日本文化特殊講義 4	1・2		2		講義	
	日本社会特殊講義 1	1・2		2		講義	
	日本社会特殊講義 2	1・2		2		講義	
	日本社会特殊講義 3	1・2		2		講義	
	日本社会特殊講義 4	1・2		2		講義	
国 際 文 化 ・ 社 会 科 目	国際コミュニケーション特殊講義 1	1・2		2		講義	選択
	国際コミュニケーション特殊講義 2	1・2		2		講義	必修
	国際文化特殊講義 1	1・2		2		講義	4 単位
	国際文化特殊講義 2	1・2		2		講義	
	国際文化特殊講義 3	1・2		2		講義	上記各 科目群 の選択 単位以 外 10 単 位以上 を履修
	国際社会特殊講義 1	1・2		2		講義	
	国際社会特殊講義 2	1・2		2		講義	
	国際社会特殊講義 3	1・2		2		講義	
国際社会特殊講義 4	1・2		2		講義		

							し、合計 22 単位 以上
研	研究指導 1 (発表指導・研究倫理含む)	1・2	2			演習	必修
究	研究指導 2 (発表指導・研究倫理含む)	1・2	2			演習	8 単位
指	研究指導 3 (発表指導・研究倫理含む)	1・2	2			演習	
導	研究指導 4 (発表指導・研究倫理含む)	1・2	2			演習	

\*研究指導 1～4 (発表指導・研究倫理含む) は研究指導教員のものを履修するものとする。(履修規程により)

春入学者は研究指導 1 (発表指導・研究倫理含む) →研究指導 2 (発表指導・研究倫理含む) →研究指導 3 (発表指導・研究倫理含む) →研究指導 4 (発表指導・研究倫理含む) の履修を基本とする。

秋入学者は研究指導 2 (発表指導・研究倫理含む) 2 →研究指導 1 (発表指導・研究倫理含む) →研究指導 4 (発表指導・研究倫理含む) →研究指導 3 (発表指導・研究倫理含む) の履修を基本とする。

#### 修了要件

科目	必修	選択必修	選択	修了要件単位
言語・コミュニケーション科目	0	4	10	22 単位以上
日本文化・社会科目	0	4		
国際文化・社会科目	0	4		
研究指導	8	—	—	8 単位
合計	8	12	10	30 単位以上

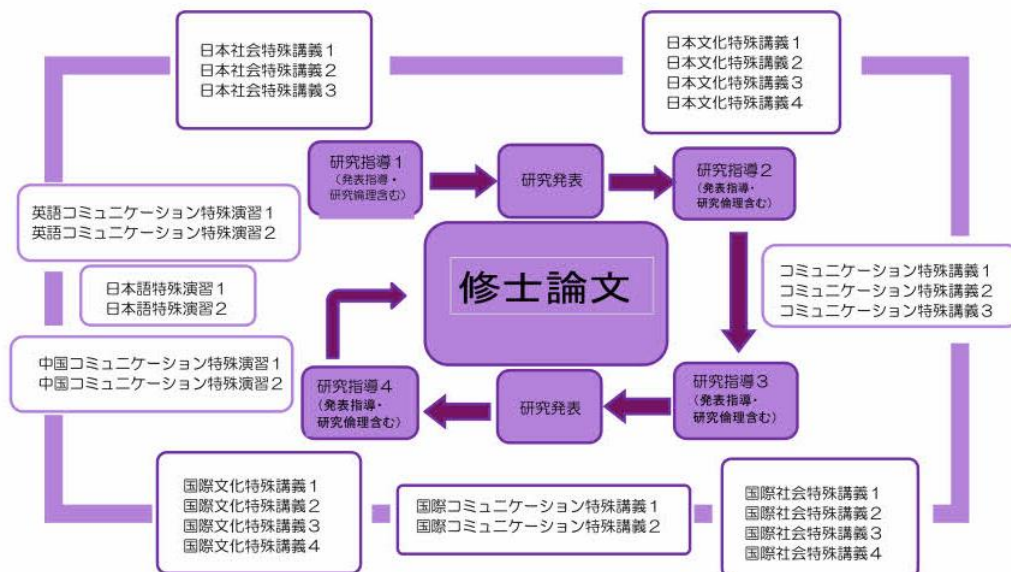
修了要件：必修科目単位 8 単位、選択必修科目 12 単位、選択科目 10 単位以上、合計単位 30 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で修士論文を提出し、本大学院が行う修士論文の審査及び最終試験（口頭試問）に合格しなければならない。

※研究指導教員の授業科目は履修するものとする。

※なお、コミュニケーション科目は大学院博士前期課程の基礎・教養科目として位置付けるもので、研究科名・専攻名の冠として使用されている「国際コミュニケーション」の基礎を学んでもらいたいと考えている。特に国際コミュニケーション特殊講義 1 は履修することが望ましい。秋入学者については国際コミュニケーション特殊講義 2 の履修を推奨します。

## 4 履修系統図とナンバリング

博士前期課程の新教育課程は言語・コミュニケーション科目、日本文化・社会科目、国際文化・社会科目、研究指導に区分します。



新教育課程では履修モデルを提示しませんが、研究テーマに応じて以下を参考にして履修の一助にしてもらいたい。なお、研究指導1～4（発表指導・研究倫理含む）は必修科目（8単位）のため、選択必修科目及び選択科目22単位分以上について参考にしてもらいたい。

言語・コミュニケーション分野をテーマにする

- 該当する言語の特殊演習を4単位
- コミュニケーション特殊講義1～3の6単位
- 日本文化特殊講義1～4の8単位中6単位
- 国際文化特殊講義1～4の8単位中6単位

日本文化社会研究をテーマにする（特に、留学生の場合）

- 日本語特殊演習1～2の4単位
- 日本文化特殊講義1～4の8単位
- 日本社会特殊講義1～3の6単位
- 国際文化特殊講義1～2の4単位

国際文化社会研究をテーマにする

- 該当する言語の特殊演習を4単位
- 日本文化特殊講義1～4の8単位のうち2単位
- 日本社会特殊講義1～3の6単位のうち2単位

国際コミュニケーション特殊講義 1～2 の 4 単位

国際文化特殊講義 1～4 の 8 単位のうち 4 単位（6 単位）

国際社会特殊講義 1～4 の 8 単位のうち 6 単位（4 単位）

※科目にはそれぞれナンバーが付けられている。これをナンバリングと言います。これはそれぞれのナンバーを見ることで科目群の区別がつくようになっている。履修系統図（カリキュラムツリー）と共に履修上の参考にしてもらいたい。

※それぞれの科目の内容については本大学院 HP で公開されているシラバスを参考にしてもらいたい。新教育課程のシラバスについては 2022 年 4 月に公開されていきますが、現状の内容については御覧いただくことができます。国際社会特殊講義については国に取られずに、トランスナショナルな考え方に基つき大きな枠組みに捉えることとなります。国際コミュニケーション専攻という名称や修士（国際コミュニケーション）自体には変更はありませんので、大きな考え方は変わりありませんが、カリキュラム・ポリシーなどをご覧戴くことで教育課程の趣旨がご理解いただけるものと思います。

なお、教育課程には含まれていないが、今後社会人として協働的な活動にスムーズに順応できるようにインターンシップなどについては就職部が取り扱っているため、適宜利用してもらいたい。留学生の場合には特に日本語によるコミュニケーションが問われるため、N1 の取得と日本語によるコミュニケーション能力のブラッシュアップに励んでもらいたい。